



K.N.F 20周年記念誌

先人たちへ。そして、未来へ。受け継がれる想いを胸に。



道

K.N.F 20th anniversary

K.N.F会員名簿

【法人】(79)

- (株)アピール
- (有)イグノス
- (株)市川製作所
- (株)いわて金型技研
- 岩手建工(株) 北上支店
- 岩手県立産業技術短期大学校
教育研究振興会
- いわてデジタルエンジニア育
成センター
- (株)岩手ヤクルト工場
- (株)WING
- (有)ウスイ製作所
- (株)ウノーインダストリー
- (株)エレック北上
- (株)小原建設
- office CADMS
- カルソニックカンセイ岩手(株)
- 川崎ダイス工業(株) 北上工場
- (株)キクホー
- (株)北上エレメック
- (株)北上エンジニアリング
- (株)北上オフィスプラザ
- 北上金融団 二水会
- 北上ケーブルテレビ(株)
- 北上工機(株) 岩手工場
- 北上信用金庫
- (株)北上精密
- 北上鐵工(株)
- (株)北上プレス技研
- (有)北上フレックス
- (株)鬼柳
- (株)ケー・アイ・ケー
- (有)K・C・S
- (株)ケディカ 北上工場
- ゴーズ(同)
- ごえん(株)

- (株)コスモワークス北上
- (株)後藤製作所
- 小松金属(株)
- (株)三光
- ジェー・エム・エス協同組合
- (株)システムベース
- (株)十辰製作所 製造事業部
岩手工場
- 白金運輸(株)
- (株)伸和光機
- (株)START
- (株)西部開発農産
- (有)大工業
- (株)高昌
- (株)多加良製作所 岩手工場
- (有)千葉工商
- TDK秋田(株) 北上工場
- (有)テクノオート北上
- (有)伝野工業所
- 東興機販(株)
- (株)東北イノアック
- (株)東北ウエノ
- (株)東北佐竹製作所
- 東北精密(株)
- (有)東和精機
- トヨタ自動車東日本(株) 岩手工場
- (株)ドゥ・プランニング
- (有)中野機工
- ハイブラ化成(株)
- パウアーコンプレッサー(株)
- (有)パワー・ミクロン
- (株)平野製作所
- (株)フジサキ
- 富士善工業(株)
- (株)プランテック
- (株)ベスト
- (株)愛吹美装

- (株)マルサ
- みちのくココ・コーラ
- ボトリング(株) 花北営業部
- 三菱製紙エンジニアリング(株)
北上事業所
- 武藤工業(株) 東北事業所
- (有)大和製作所
- 谷村電気精機(株)
- (株)吉田産業 北上鉄鋼センター
リックス(株)
- (株)ワイズシステム研究所

【個人】(20)

- 阿部昌明(北上川流域もの
づくりネットワーク)
- 石塚 豊(北上医師会)
- 伊藤琢智
- 大竹隆憲(キオクシア岩手(株))
- 小澤政行(北上市地域おこし
協力隊)
- 織笠洋祐
- 影山一男(富士大学)
- 亀田英一郎
- 川上雄也(株)岩手銀行)
- 工藤 暁(北上市役所)
- 佐藤大昭
- 嶋田佳子
- 清水友治(岩手大学)
- 菅原 健(ワラウカド)
- 鈴木 功
- 高橋俊肥考
- 武田 勝(武田酒店)
- 田中裕也(Badass)
- 星野 彰(岩手県立中部病院)
- 吉田一人(岩手大学金型技術
研究センター)

CHECK IT OUT!

K.N.Fの詳細はこちら！



K.N.F 20th anniversary

K.N.F20周年記念誌「道」

◇発行 2020(令和2)年12月

K.N.F20周年記念誌製作委員会

〒024-0051 岩手県北上市相去町山田2-35 北上市産業支援センター内

編集者：小澤政行



はじめに

西暦2000年という節目を迎えた年に誕生した
北上ネットワーク・フォーラム（以下K.N.F）は、
2020(令和2)年3月8日に20周年を迎えました。

その記念事業として、改めてK.N.Fの原点を見つめ直すとともに、
K.N.Fがチャレンジしてきたさまざまな活動の歴史を振り返る
20周年記念誌「道」を刊行することとしました。

2000年に谷村久興初代表のもと、

『地域産業界と大学や行政との連携を深め、地域産業の活性化に貢献する』
という志を胸に動き出したK.N.F。

設立時は75会員（法人65・個人10）だった会員数も
現在は99会員（法人79・個人20）となり、
活動のフィールドも全国へとひろがっています。

その活動の歴史を、どうぞ、ご覧ください。

目次

新旧トップ対談 ～初代K.N.F.代表 × 現K.N.F代表～ 03
K.N.F誕生秘話。先輩からバトンを受けて、未来へ。

あの日、あの時…… 08

2010年以降のK.N.Fの歩みとともに、代表的な取り組みをプレイバック。

K.N.F20周年特別企画

～工業都市・北上、誕生秘話～ 18

先人に敬意を込めて。工業都市・北上が生まれた歴史をたどる旅へ。

①工業のまちへ。先人たちの想いをつなぐ一本の道。

②背負っている“もの”が原動力。企業誘致で持続可能な“まち”へ。

あいさつ 26

副代表/代表

K.N.F会員一覧 28

原点。

新
旧
対
談



お
ば
ら
が
く

小原学

現K.N.F代表

×

谷村久興

初代K.N.F代表
(現「北上工業クラブ」会長)

K.N.Fは、なぜ誕生したのか？
K.N.Fは、なぜ誕生したのか？

K.N.F設立20周年を機に、
改めてその“原点”を見つめ直そうと、
初代代表と現代表の新旧トップ対談が実現！
そこに貫かれている想いとは？

K.N.Fが 積み重ねてきたもの。



語り継ぐべき想いがそこに……。

県知事の言葉がヒントに。

……2000年K.N.F設立のきっかけは？
谷村 当時、岩手県知事だった増田寛也さんに言われたんですよ。「北上川流域にはものづくりの企業がたくさんあるから、それらをまとめて何かやってみてはどうか」と。すでに「北上工業クラブ」はありましたから、それとは区別するためにも「若いヒトたちを交えてやったらいろいろな人材の交流も生まれて面白いことができるのでは」ということで誕生したのがK.N.Fです。

……若手のひとりとしてK.N.Fの印象は？
小原 一番覚えているのは、「お互いの工場を見学し合おう」という議論をしているときのことです。今でこそ工場見学は当たり前ですが、20年前はみんな隠すというか「ウチなんて」と遠慮していたときに、谷村会長が自ら手を挙げて1回目の工場見学会を自社の工場で開催された。あれが突破口というか、内向きだった考え方を外に向け「みんなで一緒に成長していこう」というK.N.Fの今の空気ができたと思いますし、私のなかでも大きく気持ち切り替わりました。

……率先して見学を受け入れた狙いは？

谷村 私自身、社長という立場を利用して各社の工場を見学させてもらっていたんですよ。そうすると自社ではやっていないような技術や取り組みが見えてきて非常に勉強になるわけです。

そこで得た知識やノウハウを自社の工場だけでなく、地域の工場にも教えてあげられたら地域全体のレベルが上がります。大手さんの工場を誘致して発展してきた北上市において、それを下支えする地域の工場全体のレベルが高まれば、大手さんの仕事の受注の可能性もひろがりひいては地域全体の発展にもつながるとつねづね思っていました。

ですから、技術やノウハウを地元に戻元するやり方のひとつとして「工場見学会」は有効だし、それは若いヒトたちの勉強にもなると思って、「誰もやらないなら私が」と手を挙げたんです。

『和』をもって若手の成長に。

……K.N.Fも「工場見学会」もゼロからのスタート。ご苦労も多かったのでは？
谷村 大変なことは大変でしたが、でも

(小原) 学ちゃんはじめ、若いヒトたちがたくさん協力してくれたんですよ。

「工場見学会」という新しい取り組みも若いヒトたちが興味を持って集まってくれたからこそ成功したのだと思います。

……初代代表として、どういう部分を大切にして活動されていましたか？

谷村 『和』ですね。東北の方は総じて「遠慮」するようところがあって、それはひとつの美德ではありますが新しいことをはじめようというときに「遠慮」ばかりしているは何もできません。

しかし、そこに『和』があれば、「遠慮」して譲り合うのではなく、話し合いを重ねてお互いに助け合いながら、自分たちの技術なり考え方を高め、みんなで成長していくことができます。

そういう成功体験を繰り返していくことで、組織にも信頼関係が生まれ、言いたいことも自由に言い合えるし、間違っていたら「ごめんなさい」と言えば済む、そういう関係性が生まれる。そうした環境のなかで、若いヒトたちが自分たちが「良い」と思うことにどんどんチャレンジし、可能性をひろげていってくれたら

とあって取り組んでいました。

……谷村会長はK.N.F 10周年を節目に小原代表にバトンを渡されますが、自ら身を引こうと思った理由は？

谷村 若いヒトたちがK.N.Fの取り組みにしっかりとついてきてくれたお陰で、学ちゃんを中心に若い世代が会社や役職の垣根を超えて同じ立場で何でも言い合える環境ができたと感じたからです。



対トップ
談

中心となるメンバーもそれぞれ一人ひとりに個性があって、みんな分担しながら、いろいろな取り組みにチャレンジするという空気が生まれていた。

そういう何でもいい合える仲間が学ちゃんの周りにいて、「若手の育成」という私のなかでのひとつの目標は達成できたのかなと思っただけです。

私でもいいのか……。
悩みながらも突き進む。

……初代代表からバトンを受けたときは？

小原 正直、当時は「建設業の私が代表でいいのか」と（笑）それに谷村会長に比べたら私は二世代下になってしまします。それでも谷村会長は「小原君でいいんじゃないか」と言ってくくださったので代表を務めることにはなつたのですが、やっぱり悩みましたね。

谷村 完全に異業種だったからね（笑）

小原 そうなんですよ（笑）とはいえ谷村会長からバトンを受けたからには「なんとしても続けて行かなければ」と必死にやってきましたという感じですね。

……印象に残っている取り組みは？

小原 東日本大震災のときの復興支援事業ですね。あのときは北上地域の工場から使わなくなった工具や工作機械などを集めて被災された沿岸地域の工場に届けたんですよ。それで急場をしのいでもらおうと……。

谷村 あの取り組みは大きかった。沿岸の工場の方たちも助かったでしょう。

小原 今でも覚えていますが、毎年北上市で行われている立地企業交流会の懇親会の場で「5分だけ時間をください」ということで、KNFの復興支援の取り組みをお話させていただいて、みなさんにご協力をお願いしたんですよ。当時は私も代表になつたばかりで、すごく緊張して説明もたどたどしかったとは思いますが、それでもみなさんが「全面的に支援する」と言ってくれました。

最終的にはKNFにとどまらず、北上市近隣の産業界のみなさんが応援してくださつて、スパナから産業用ロボットまで、いろいろなモノを被災地の工場に届けることができました。本当にそれは強く印象に残っている取り組みです。

なりに達成できたと思います。というのは、20年前は「北上工業クラブ」以外には地域のものづくりの企業が集まる組織はなかったわけですね。

そこに若いヒトたちが集まり、みんなが同じ立場で自由に言い合える、やりたいうことにチャレンジできる、一緒に成長できる、組織をつくることができました。

しかも私が引退したあと学ちゃんを中心にその組織が続いて、こうして20周年を迎えることができたわけですから。

こういう若い世代が中心で自由にできる環境は他にはないと思うからこそ、もっともつと続いていってほしいですね。

小原 私自身、谷村会長と今お話をしていると考え方を変えなければと思いましたが、20年前は北上にきた大手さんが集まる「北上工業クラブ」という組織があって、KNFは地元の若いヒトたちが集まった組織で、そこでいろいろ挑戦してきたという構図でした。

ところがそれから20年も経つと、谷村会長は「北上工業クラブ」の会長となられて、しかもそちらも地元の方たちが集まる組織になってきているわけですね。

そうすると、当初KNFが地域の工場のレベルをあげようという取り組みでいた目的はかなり薄れてきて、「KNFが存在する理由はもはやないのでは……」と正直悩んでいました。

でも、そんなことはない。これからも若い世代が集まった組織だからこそできる、もつと尖つたことに自由に挑戦していけばいいということですよ。

谷村 そういうことですよ。

小原 もつともつと、他の組織がやりにくいけれど、みんなが興味を持つようなこと、面白いと思うことに挑戦していかなければと改めて思いました。ありがとうございます。

20年を総括。KNFとは？

……小原代表が大切にしてきたことは？

小原 「KNFの良きって何だろう？」といつも考えていましたね。私たちが何かやるときは、いつも「今、北上の産業界に何が必要か？」という議論からスタートするのですが、なおかつ「北上工業クラブ」や「商工会議所」でやっていたらつしやることはやる必要はない、「ここ

は誰もやっていないし、失敗するリスクもある。でも誰かがやらないと」という部分に刺さることを意識して挑戦してきましたし、やっぱりそこが「KNFの良さ」だと思っています。

谷村 「隙間を埋めていこう」ということだね。

小原 そうです。でも、やってみたら「意外とニーズがなかったね」ということもたまにあるんですが（笑）

谷村 あつたね。空振りもある（笑）

……20周年のKNFを総括すると？

谷村 私としては、KNFの目的はそれ



【初代K.N.F代表（2000～2010）】

谷村 久興（やむら ひさおき）

谷村電気精機株式会社代表取締役会長、流通株式会社取締役、みちのくココ・コーラボトリング株式会社取締役、アイコー精機株式会社取締役などを歴任。2007（平成19）年に黄綬褒章受章。



Project 1

Date : 2011,5~

ものづくり復興支援事業

発案から2カ月で実現。
大震災で被災した沿岸地域の企業に工具類を提供！



6月5日付の岩手
日日新聞の1面に掲載。



6月13日にはNHK
の「おぼんです岩手」でも、その取
り組みが放映。

産業復興へ工具支援
K.N.F 11日まで提供募る

2011(平成23)年3月11日に東日本大震災が発生。K.N.FではHYKK異業種交流(本庄・横手・北上・金石の横軸連携)の縁から金石地域企業を支援するべく、5月25日に金石大館地域産業育成センターを通じて(株)三陸技研様、(有)釜石内燃機様を訪問。両社とも甚大な被害を受けながら自力で立ち上がろうとする姿に感動・共感し、いち早く工具類や測定器具類をお届けしました。

あの日、あの時……

当時は行政でも復旧・復興支援策について暗中模索の状態です。そこで会員のみなさまの協力を得てK.N.Fの復興支援事業として、行政感覚ではなく民間感覚でスピード感を持って、被災された両社をご支援させていただきました。釜石地域企業の元気を引き出すきっかけづくりに大いに貢献できたと思います。



阿部昌明
北上川流域ものづくり
ネットワーク

remember 2011

- 2012 (平成24) 年
- 1/16 他地域産業グループとの意見交換会「長岡中小企業受注促進事業推進委員会意見交換会」
- 12/21 K.N.F産学民官連携交流特別講演会「逆境をばねに……」
- 9/26 経営セミナー「国内における自動車産業集積の現状と課題」九州の経験と東北への期待
- 8/9・10 他地域産業グループとの交流会、大阪府中小企業家同友会南東ブロックネットワークプロジェクト意見交換会
- 6/10 産学民官連携フォーラム「災害を乗り越えて」絆(企業間・地域間)
- 5/25 ものづくり復興支援(東日本大震災で被災した釜石地域企業へ工具類などを届け以降も継続) P.9参照

remember 2016



Menozuklinknet

産業復興へ工具支援
K.N.F 11日まで提供募る



remember 2018



remember 2016



remember 2017

あの日、あの時……

K.N.Fでは産学民官の連携により地域産業を活性化させるため、さまざまな活動を行ってきました。ここでは2010年からの歩みとともに、代表的な取り組みをピックアップ。当時を知るK.N.F会員の思い出エピソードとともに振り返ります。

PLAYBACK 2010~

remember 2014



remember 2015



remember 2015

- 2011 (平成23) 年
- 2/3~5 おおた工業フェア(会員企業の技術紹介、製品展示2社、カタログ出展10社)
- 12/10 地域間・企業間連携セミナー「大空洞化時代の中小企業経営を考える」中小企業の水平的連携の推進「遠隔地連携のツールとして」災害時の地域間・企業間連携について
- 11/26 K.N.F産学民官連携交流特別講演会「不便は開発の母」
- 9/17~19 北上工業匠祭(会員紹介、簡易型MFC A成果揭示(4社)10年の歩みDVD上映、企業紹介(製品・パネル展示))
- 6/4 産学民官連携フォーラム「私自身の立ち位置から地域の活性化を考える」
- 2010 (平成22) 年

10年の歩み

Project 3

Date : 2014,9

『まるっとてっちゃん1号』製作

北上コロッケを盛り上げよう！
プロジェクトチームでPRマシーンを製作！



K.N.F.のプロジェクトチームが北上コロッケを盛り上げるべく考案したPRマシーンが「まるっとてっちゃん1号」。アルミの看板6枚がモーターでゆっくり回転し、紙芝居のように北上コロッケの魅力伝えるところがポイント。(有)伝野工業所が製作し、3Dプリンターでつくった「コロッケごむらい」などの人形とともに、同年9月に開催された地元のイベントでお披露目されました。

あの日、あの時……

会長が突然現れ「この図面で北上をPRする展示装置をつくってくれ」と言われ、「驚き桃の木山椒の木(ふるっ!)」素人がデザインしたため構造の問題など手探りでしたが、自分なりに工夫してなんとかカタチに。プロとしては納得いかないところもありますが、いろいろな場面で使っていただき、恥ずかしいやら嬉しいやらでした。



伝野 哲夫
有限会社 伝野工業所

remember 2014

● 2013 (平成25) 年

11/25 産学民官連携交流特
別講演会「ものづく
り産業に咲くなで
しこiwate」

10/4~6 きとかみ・かねがさ
きたテクノメッセ(会
員紹介、製造製品や
活動内容を展示、北
上コロッケ・フライ
ヤーの改造案を面白
CGにて上映し、人気
投票を実施、全日本
製造業コマ大戦ブレ
大会「じえいじえい
場所」開催・P10

8/28 北上コロッケ・フラ
イヤ改造チーム発
足(面白い動きで集
客を図るフライヤー
のデザインを検討)

6/28・29 モノヅクリリンクネッ
トinn北上×KNF
(モノヅクリリンクネ
ットの例会を北上で
初開催。100名を
超える参加者と地域
間交流を図った)

5/22 産学民官連携フォー
ラム「真の中小企業
連携から生まれるも
のとは？ 仮想の中
のリアル」

Project 2

Date : 2013,10~

全日本製造業コマ大戦



自社の技術と誇りを賭けて。
1円玉よりも小さいケンカゴマで全国に挑め！



技術と設備はあっても自社製品を持たず下請けとして日本を支えてきた製造業者に、自社製品を創る機会を設けようと企画された「全日本製造業コマ大戦」。全国の中小製造業が自社の技術と誇りを賭け、1円玉より小さいケンカゴマを持ち寄り一対一でバトル。北上市では2013(平成25)年に初開催。さらに翌年、地元開催の北東北予選では、K.N.F.会員の(有)ウスイ製作所が優勝しました。

あの日、あの時……

2012年夏、碓井さんと「仙台場所」に参戦したのがコマ大戦との運命の出会い。「この熱い戦いを北上でも開催したい！」そんな想いで招致を進めました。「いわて場所」では私自身も市川製作所さんにコマをつくっていただき出場したのが良い思い出です。直径2cmのコマにより、市内企業の間深い絆が生まれました。



大竹 隆憲
元北上市役所職員

remember 2013

2012~

11/21 産学民官連携フォー
ラム「真の中小企業
連携から生まれるも
のとは？ 仮想の中
のリアル」

7/2 モノヅクリリンクネッ
トinn北上×KNF
(モノヅクリリンクネ
ットの例会を北上で
初開催。100名を
超える参加者と地域
間交流を図った)

6/23 産学民官連携フォー
ラム「中小企業
の連携で見えた、
地域の底力、
「自動車、建設機
械分野の町工場連
携で農作業分野に
！世界を目標に進
出！」JSTラム復興
促進プログラム事
業説明

6/23 モノヅクリリンクネ
ット(地域の他の
企業群と連携する
ことを新たな価値
を生み出すための
オープンな情報交
換の場)に参加。
以降、年3回参加

6/23 援(会員の復興支
援)により提供の溶
接機を金石地
域企業に届けた)

11/21 KNF地域連携チ
ーム発足(市外で
開催されるイベン
ト・展示会等への
参加や来市した市
外団体との交流を
図るため)

10年の歩み

Project 5

Date : 2016

いわて国体記念品試作

「2016希望郷いわて国体」に向けて記念品を考案。
ものづくりのまち「北上市」をPR!



北上市が主会場となる「2016希望郷いわて国体」の記念品を試作し、同国体の審査会に提案しました。ものづくりのまち「北上市」をPRしようと考案したのは、ワンコ兄弟を模した金属加工のコマで、全日本製造業コマ大戦でも使用可能に。設計は、いわてデジタルエンジニア育成センターが担い、3Dプリンターで試作しました。

あの日、あの時……

国体の実行委員会に相談したところ、記念品は市内加工品で調達することに。会員のみならず進めた記念品の開発はとても楽しく、提案にふさわしい内容となりました。審査会の結果、私たちK.N.Fの提案は惜しくも次点で落選となりましたが、この働きかけをきっかけに会員連携による最終製品開発が進むことを期待しております。



工藤 暁
北上市役所

remember 2016

- 11/16 産学民官連携セミ
- 11/10・11 県外工場見学会
(株)浜野製作所様
・東京都(株)オオ
ツカ様・茨木県
- 10/2~4 全日本製造業コマ
大戦を実施)
- 8/10・11 K.N.Fの活動PR
動画を撮影・P12
参照
- 5/20 産学民官連携フォー
ラム「連携から
生まれる『ものづ
くり』の可能性」
- 3/13 支援「ビジネススマ
ツチングin金石」
- 2/26 新事業展開セミナー
「農業・工業も
のづくり座談会」
- 2015 (平成27)年
- 11/28 産学民官連携交流特
別講演会「徹底トコ
トンの3S活動がも
たらしたものは？」

P11参照

Project 4

Date : 2015,8

15周年記念 PR動画制作

東京の人気劇団が手掛けた動画でPR!
地元の小学生のかわいい演技も大好評!



北上市を中心とした地域の企業と市民の若手有志が集い、産業界はもちろん地域の活性化にも取り組むK.N.F。15周年を迎えた2015年には、その活動をよりひろく市民の方に知っていただくようPR動画を制作。三宅裕司が主宰する人気の劇団「スーパーエキセントリックシアター」が手掛けた動画は、オーディションから選ばれた地元の小学生たちのかわいい演技とともに好評を得ました。

あの日、あの時……

予算は30万。今年のテクノメッセ出展でK.N.Fは何ができるか？悩んでいると、あの三宅裕司が主宰する人気劇団「スーパーエキセントリックシアター」の社長から電話が！その悩みを伝えると「PR動画をつくれれば」というアドバイスに加え、動画製作も手伝ってくれることに！あれよあれよという間に完成、テクノメッセで初上映となりました。



高橋春男
NPO法人
きたかみ観光NEXT

remember 2015

- 9/20・21 北上コロンケ・フ
ライヤー改造チームが
製作したPR動画を
イベントで展示
- 7/31 北九州・東北地域自
動車産業交流事業
(北九州地域自動車
部品ネットワークの
会員企業様が北上市
を訪れ交流を深めた)
- 7/19 第3回 全日本製造
業コマ大戦 北東北
予選北上場所開催へ
の協力・P10参照
- 5/27 産学民官連携フォー
ラム「ILCは地域
産業に何をもちた
らすか?」ILCの全
体像と人材育成・新
産業創成」
- 2/19 新事業展開セミナー
「農業・工業ものづ
くり座談会」
- 1/24 「ビジネスマッチン
グin金石」(パネ
ル展示・6社、プレ
ゼン・1社2団体)
- 2014 (平成26)年

2014~

10年の歩み

Project 7

Date : 2017,8

シャッショーBAR

東北初！ 企業経営者が
バーテンダーとなって学生をおもてなし！



学生と北上市の企業経営者が楽しく交流する場をつくらうと、東京などで行われていたユニークな試みを東北で初開催。本物のバーを舞台に、企業経営者が蝶ネクタイ姿とざっくばらんな会話で学生をもてなすひととき。企業経営者は学生の率直な意見や考え方に、学生は地元の企業経営者の想いに触れ……。ふだんは接点がないだけに「本音の意見交換ができた」と学生にも好評でした。

あの日、あの時……

BARの雰囲気を感じながらの気さくな懇談でした。時代が違えば若者の意識は変わり、企業に対する考えも異なるのは事実ですが、仕事を通して成長したい意識は普遍。若手の人材育成のために、近年の若者を取り巻く環境や意識の変化を理解し、企業がその成長意欲を活かさなければと改めて考えさせられ、とても勉強になりました。



菅野良業
株式会社
コスモワークス北上

remember 2017

- 7/20 産学連携セミナー「色を活かすものづくりについて」
- 2/20 県外工場見学会・宮城県栗原市（豊田合成東日本㈱様、サンダビックツリーリング㈱）
- 1/27 明日のすみだを拓く大交流会「女性経営者の視点で考える企業経営」
- 2018（平成30）年
- 11/14 県外工場見学会・秋田県横手市（秋田渥美工業㈱様、日発精密工業㈱様）
- 10/27～29 きたかみ・かねがさきテクノメッセ（会員紹介、活動内容をDVD上映、全日本製造業コマ大戦特別場所開催）
- 10/27 第13回 全国若手ものづくりシンポジウム in 北上「オンラインノベーションで変わる地域産業の未来」

Project 6

Date : 2016,10

モノヅクリンクネット in 北上

全国の仲間と、より深い交流へ。
モノヅクリンクネット「10月北上総会」も大成功！



2016(平成28)年10月28日(金)～30日(日)の3日間開催されたモノヅクリンクネットの「10月北上総会」。地域を超えて、より深い交流をめざそうと行われた今回は、9都府県からおよそ60名が参加。工場見学や3D CADの体験講習会などの他、岩手を満喫できる温泉・観光ツアーなども好評を得るなど、地元の魅力を知っていただきながら全国の仲間と交流を深めることができました。

あの日、あの時……

ワークショップの内容について夜中11時過ぎまで、みんなで話し合ったのは良い思い出です。何度も打ち合わせを重ね、苦労もありましたが、総会・ツアーともに大成功で全国から集まった仲間の方たちに喜んでいただいた笑顔は、何よりも大切な私の宝物となりました。



小原照記
いわてデジタル
エンジニア育成センター

remember 2016

- 8/19 シャッショーBAR（会員の経営者4名、学生6名参加）P15参照
- 2017（平成29）年
- 10/28～30 ト総会 in 北上（9都府県から60名が参加）P14参照
- 10/20・21 「ビジネスマッチング in 釜石」
- 10/1～11 「2016希望郷いわて団体」記念品試作・P13参照
- 4/7 産学民官連携フォーラム「よそ者から見た北上」3年間の北上シテイスールス生活報告」
- 1/21～22 「ビジネスマッチング in 釜石」
- 2016（平成28）年
- ナー「産学連携 本当の効果」

10年の歩み

Project 9

Date : 2018,9

工場見学会 in 函館

新たなネットワークの構築と 広域の産学連携につながる礎に！



2017(平成29)年に開催された第13回全国ものづくりシンポジウム in きたかみでの出会いがきっかけで翌年さっそく実現。(株)メデック様は「ものづくり日本大賞 地域貢献賞」などにも輝く複合エンジニアリング企業。公立はこだて未来大学様は人工知能研究拠点「未来AI研究センター」があり、新たなネットワークの構築と広域の産学連携につながるきっかけづくりができました。

あの日、あの時……

小原 学代表就任後、初となる東北工場見学と大学見学が2018(平成30)年9月27日(木)・28日(金)に行われました。青函トンネルを新幹線で越境することが初めての会員の方もいるなか、総勢8名で函館へ。27日は(株)メデック様、28日は公立はこだて未来大学様を見学し、新たなネットワークの構築と情報共有ができた有意義な事業となりました。



高橋 卓
株式会社START

remember 2018

- 2020 (令和2)年
 - 12/10 産学連携セミナー「AR・EC及び州大学の産学官連携の先進的な取り組み事例について」(各地域における産学官連携の取り組みについて)
 - 8/23 外国人の雇用を考えるセミナー in 北上「外国人技能実習制度等の概要と最新動向等について」(共催)
 - 8/21 産学連携セミナー「新たな産学連携の取り組みについて」(共催)
- 2019 (令和元)年
 - 3/28 3Dプリンター産学連携セミナー「マテリアル・フルカラー3Dプリンターの東北及び全国企業の活用事例と最新情報について」(共催)
 - 2/27 3S活動に取組む県内外7社の事例発表や活動紹介、ワークショップ等(共催)
 - 2/25 展示のポイントを把握するためのセミナー in 北上「失敗しない展示セミナー」
 - 2/14 例発表・3社・3Sの講演など(共催)
 - 2/02 いわて3Sサミット発表会

Project 8

Date : 2018,7~

3S極め隊

「3S」(整理・整頓・清掃)を通して 元気な企業の輪をひろげる「3S極め隊」始動！



「3S活動」を通して生産性向上と人材育成を実現しているK.N.F会員が主体となって活動。そのノウハウを地域の企業にも浸透させ、ともに成長し、元気な企業の輪をひろげていこうと2018(平成30)年に「3S活動」に取り組む北上市内の企業をめぐる見学会を開催。翌年にはさらに発展し、全4回の「実践3S講座」を開催するなど、その取り組みは現在も継続的に行われています。

あの日、あの時……

2019年の秋にK.N.F会員企業を対象に「実践3S講座」を開設し、私自身初めて講師を務めさせていただきました。全4回の講座でしたが、教えるだけでなく、興味を持っていただくことも目的のひとつだったので、改めて人に教えることの難しさを実感しました。良い機会をいただき、本当にありがとうございました。



葛西君彦
株式会社 鬼柳

remember 2018~

- 2019 (平成31)年
 - 12/6 プロ人材戦略セミナー in 北上「人材確保の方法と岩手県企業の中途採用の課題と対策について」(共催)
 - 9/27・28 北海道函館市(株)メデック様、公立はこだて未来大学様 P17 参照
 - 7/25 3S極め隊企業見学会(株)鬼柳 P 参照
- 2018~
 - 3/28 3Dプリンター産学連携セミナー「マテリアル・フルカラー3Dプリンターの東北及び全国企業の活用事例と最新情報について」(共催)
 - 2/27 3S活動に取組む県内外7社の事例発表や活動紹介、ワークショップ等(共催)

10年の歩み

工業のまちへ。 先人たちの 想いをつなぐ 一本の道。

長兵衛道路の、その先へ……。

戦前から「工業化」の道を模索していた先人たち。その想いをつなぎ、未来を切り拓いた一本の道が今もあります。そして、ひとりの男が切り拓いたその道の先に、現在の北上市とK.N.Fがあります。北上市の原点をたどる旅へ、出発。

【20周年記念誌の編集を依頼された際に、小原代表から「今、工業都市として発展している北上市は急に生まれたものではない。遡れば戦前からの先人たちから、今の市長・市職員・市民が管々と積み上げてきたものだ。ぜひ20周年記念誌の特別企画として記録に残したい」と言われた。私は代表に導かれるまま資料をあたり、取材を進めた。工業都市・北上へ。先人たちの想いをつなぐ一本の道がそこにあつた。
（編集者・小澤政行）】

工業都市・北上の夜明け。

工業化に向けた北上市の歩みを、まずは戦前までひも解いてみる。

江戸時代には、南部（盛岡藩）と伊達（仙台藩）の藩境に位置し、水沢と花巻という城下町の間にあったこの地域は、農村地帯を背景とした奥州街道の宿場町として、さらには年貢米などの物資を船で江戸に送るための中継港として栄えた。「よそ者も受け入れ、もてなす」という北上市の風土は、そうしたヒトの往来と交流が日常的だったこの地域の長い歴史に育まれたものかもしれない。

明治も半ばになると「鉄道」の登場で「舟運」は衰退。大正から昭和初期にかけては、北上市の西に位置する西和賀地区の鉾山の発展にあやかってにぎわった時期もあったが、それも鉾山景気が下火になってくると……。

次男・三男たちに働く場を。

ここで求められたのが独自の産業を育てることであり、先人たちが選んだのが「工業化」だった。工業を誘致できれば農家の次男・三男など若いヒトたちに働く場が生まれ、人口流出、ひいては地域の衰退を防ぐことができる考えた。

工業化の先駆けとなったのは、北上市の前身である黒沢尻町が1937（昭和12）年に誘致した軍需工場（のちに空襲で壊滅）。さらに黒沢尻町を中心に、当時は盛岡に1校しかなかった工業高校を県南にもつくるべく岩手県に陳情書を提出。それが、1939（昭和14）年の

県立工業高校（現黒沢尻工業高校）の設立につながった。なお、その際の建設経費37万2500円と敷地は県の希望通り全額近隣町村からの寄付というカタチで引き受けたが、先人たちは当時の黒沢尻町の歳出（20万2500円）の2倍に迫る規模の負担を受け入れて、工業化の道とそよのための人材育成に未来を託した。

その後、戦争の時代に入りますが、工業振興をさらに加速させるべく1町6カ村（黒沢尻町・飯豊村・鬼柳村・更木村・二子村・相去村・福岡村）が合併して今から約70年前の1954（昭和29）年に誕生したのが「北上市」である。

北上市はその誕生からすでに工業都市をめざしていた。その先立ちとなったのが、北上市制発足とともに飯豊村長から北上市助役に就任した八重樫長兵衛氏だった。

財政再建団体の苦難を超えて。

北上市は合併当初から赤字財政に苦しみ、わずか2年後には財政再建団体として国の指定を受けるまでに。事業をやるたび国にお伺いを立て、その都度議会を

開かなければならない事態にまで追い込まれたが、爪に火を点すような努力で、10年の財政再建期間を6年で終わらせ、1962（昭和37）年3月に指定から解除された。

しかし、そうした状況下でも工業化に向けた取り組みを進め、1959（昭和34）年に国の指定による工場適地調査を行い、工業団地の整備を決意する。

当時、財政再建期間中であつたため、対応策として、2年後に「勸北上市開発公社」を設立。同公社は、工業用地・住宅用地等の造成や観光開発に必要な施設の整備拡充を重点的に図り、それを「もつて市民福祉の向上に貢献する」ことを目的とした岩手県でも初となる機関であり、工業化を加速させるエンジンとなった。

北上市制のスタートとともに、北上市の助役として工業振興に精力的に取り組んでいた長兵衛氏は、財政再建団体の指定から解除された翌月、1962（昭和37）年4月に2代目北上市長に。と同時に「北上市開発公社」の理事長にも就任し、工業化の道を一気に進めていった。



八重樫 長兵衛（やえがし ちょうべい）

1951(昭和26)年に飯豊村長に就任。1町6カ村が合併し「北上市」となった際に助役に。さらに1962(昭和37)年には2代目北上市長となり、北上工業団地の造成と企業誘致に尽力。市長を退いたあとは、北上市農業協同組合長、岩手県経済農業協同組合連合会会長などを歴任。1978(昭和53)年、65歳で永眠。◀写真は長兵衛氏の長女・励子さん宅に飾られてある長兵衛氏の肖像画。晩年に描かれた作品で、ホッとひと息ついたようなやさしい目の雰囲気、励子さんのお気に入り。



昭和30年代後半から事業を開始した北上工業団地は、岩手県内で最も歴史ある団地であり、工業都市・北上のシンボルともなっています。この団地を横断する道路こそ「長兵衛道路」であり、この道路を中心に現在127haの敷地に30を超える企業があり、日夜ものづくりで励んでいます。

K.N.F20周年特別企画～工業都市・北上、誕生秘話②～



背負っている“もの”が原動力。 企業誘致で持続可能な“まち”へ。

工業化の道に“我がまち”の未来を託して1町6カ村が合併し、北上市が誕生したのが1954(昭和29)年。以来、さまざまな苦難を乗り越えながら、東北有数の工業都市へと発展してきた北上市。そこにはどんな思いがあるのか……。この対談では、北上市役所で企業誘致にかかわってきた方々を迎え、その思いに迫ります。



……加藤さんが配属されたのは？
加藤 商工課です。前年まで産業課と言っていました。農業と商工観光を分けて課をつくらうということで、私が入庁した年に商工課ができました。

北上市自体がもともと工業化を進めるために1954(昭和29)年に1町6カ村が合併したという経緯もあって、そういう準備も進めていました。さらに私が入庁する前年に「北上市開発公社」も認可が下りていて財政的にもなんとか目途がたつて、「よし、やろう」という雰囲気でした。

財政再建団体からの奮起！
……加藤さんが北上市役所に入庁されたのが1962(昭和37)年4月1日。そのすぐ後に八重樫長兵衛氏が2代目市長となりますが、当時の市役所の雰囲気は？
加藤 当時の北上市は今の夕張市と同じように財政再建団体に指定されていて、お金が全くないし、何か施策を行うにも国の許可が必要で、みな悶々と仕事をしていたわけです。そうしたなかで私が入庁した年は、10年の財政再建期間をなんとか6年で終えて財政再建団体の指定も解除されたときでした。



当時の資料を眺めながら、小原代表とともに父である長兵衛氏の足跡を振り返る八重樫勸子さん。

工業都市・北上の代名詞ともなるのが岩手県でも初となる工業団地「北上工業団地」の造成と企業誘致の取り組み。市が主体の工業団地の造成は、過去に前例がないだけに画期的であると同時に大きなチャレンジだった。巨額の出費を伴うだけに工業団地の造成には反対の声も多かった。しかし、それでも長兵衛氏は、先進的な取り組みを行っている他県に学び、「企業が

長兵衛氏がつないだもの。

現在10カ所の工業団地を有し、東北

の担当者も必死に企業にアプローチするも誘致はなかなか進まず、ようやく北上工業団地に第1号の企業が立地したのは1967(昭和42)年のこと。「北上市開発公社」が誕生してから5年後、長兵衛氏が2期目の北上市長選に挑むも落選して1年後のことだった。

のちに「長兵衛道路」と呼ばれ、企業誘致が思うように進まない中、反対派のやり玉にたびたびあがった。取材に伺った長兵衛氏の長女・八重樫勸子さんは、今でも当時、近所の子らが「長兵衛道路に(車が通らないので)ぺんぺん草が生えてらあ」とはやしている声が耳に残っていると語る。

来るなら受け入れる消極型の誘致」ではなく「積極型の誘致」を選択。その象徴となったのが現在の北上工業団地を東西に貫く一本の道。今では珍しくもない4車線道路だが、当時何もなかった野原に突如幅20メートルもある道路ができたインパクトは大きかった。

有数の工業都市として発展を遂げる北上市において、その工業化を一気に加速させたのは北上工業団地の成功であり、かつて「ぺんぺん草が生えてらあ」と言われた一本の道が、その未来を切り拓いたと言っても過言ではない。

ちなみに、北上市長となった長兵衛氏は「みちのく芸能まつり」の創設、「市民憲章」の制定、「市民会館」の建設、県内に先駆けて「都市計画課」の設置、東北自動車道のインターチェンジ設置など、現在の北上市の礎となるさまざまな施策を手掛けた。また農業への思いも強く、北上市長を退いてからは北上市農業協同組合長、岩手県経済農業協同組合連合会会長などを歴任した。

北上市は現在農業出荷額・工業出荷額とも県下有数の集積を誇り、住み心地の良い街ランキングでも上位に位置するが「北上市開発公社」の目的にあるそれを「もって市民福祉の向上に貢献する」という一文にこそ、長兵衛氏をはじめ歴代市長・市職員・市民の工業化への熱い思いが現れているといえるだろう。(了)

【小原代表から「工業化の道筋を付けた北上市2代目市長・八重樫長兵衛氏の娘さんが今もお元気なので、話を聞きに行こう」と言われ、村崎野のご自宅へ。そこで今も北上工業団地を東西に貫く「長兵衛道路」の物語を伺った。
(編集者・小澤政行)】

長兵衛道路にぺんぺん草が生えてらあ。

工業都市・北上の代名詞ともなるのが岩手県でも初となる工業団地「北上工業団地」の造成と企業誘致の取り組み。市が主体の工業団地の造成は、過去に前例がないだけに画期的であると同時に大きな

当時として印象に残っているのは最初の工業係長が経済新聞に毎日目を通していたことですね。経済新聞を読むと自分が珍しい時代でしたから。

ただ、当時の私の仕事は企業誘致ではなく北上工業団地や北上鉄工団地の造成の方ですね。企業の誘致を増やすより先に工業開発を促進する国のさまざまな法律や施策ができた頃で、申請書をつくって認可をもらい造成を円滑に進めていくことに一生懸命で、工業団地に企業を定着させるまでは20年30年のスパンが必要だろうと思って取り組んでいました。

実際に、私は3年後に商工課を離れて約20年後の1988（昭和63）年に再び戻ってくるのですが、北上工業団地が完成したのもその年ですから。

……ちなみに当時、企業誘致の情報収集は経済新聞が主流ですか？

加藤 そうですね。それ以外はいろいろな伝手を頼ってという感じだったと思います。ただ当時私は企業誘致にはかかわっていませんでしたし、その頃を知っている方はもういらっしやらないですね。

東京へ……。夜行列車が原点。



齋藤泰男／2004(平成16)年から7年間企業立地課に、2011(平成23)年から2年間商工部に在籍。

……最終的に北上市に決まった理由は？
高屋敷 大手半導体メーカーさんには「北上工業団地以外なら岩手に行きませぬ。他県に行きます」とおっしゃっています。

ただいたんです。なぜ、そこまで北上市にこだわったのかと言えば、これは後から聞いた話ですが、北上市には当時すでに工業団地から出た排水を特定公共下水道処理施設で全部浄化して最終的に北上川に放流するという環境ができあがっていた。当時は工場からの排水による公害が問題になっていて、岩手で特定公共下水道処理施設を持っているのは北上工業団地だけでした。企業にとっては、そこまで流せば北上川への最終放流は北上市が責任を持つということ、「それが大きかった」とおっしゃっていました。

小原 そうすると「夜行列車で東京へ」というのは高屋敷さんの時代ですか？

高屋敷 私たちの頃はちょうど新幹線が開業したときですから、さすがにそれはなかったですね(笑)

加藤 夜行列車の時代は先輩たちからよく笑い話として聞いていました。例えば夜10時頃、夜行列車の「北星」に乗って朝一番に霞ヶ関の官庁に行くという感じですね。そのとき当時はお土産として三陸のホヤなどを持っていったそうですが、列車の中はホヤの臭いで充満(笑) ですから列車の連結部にお土産を置いて立ちっぱなしで東京に行ったそうです。

……高屋敷さんは1982（昭和57）年に商工課に配属されたそうですが、当時の様子は？

高屋敷 私が担当したときは誘致企業の方から「京浜地区から東北地方に展開を考えているところがある」という情報

をいただいていたときでした。それが1984（昭和59）年の大手半導体メーカーさんの誘致につながりました。



加藤正武／1962(昭和37)年から3年間、1988(昭和63)年から3年間、さらに1994(平成6)年から3年間、通算で9年間商工課に在籍。

諦めずに、何度でも……。

……齋藤さんは2004（平成16）年から企業立地課長に、さらに2011（平成23）年には商工部長とられますが、企業誘致の取り組みはどのように？

齋藤 以前は、企業さんは「工場をつくるかどうかは別として、まず土地を確保しておきましょう」という考え方をしていたんですよ。ところが私たちの時代になると土地の取得と同時に工場をつくるということ、それに対応するスピードが求められるようになり、「スピード・ボジティブ・ホスピタリティ（おもてなし）」の3つを目標に掲げ、企業誘致に取り組んでいました。

……具体的には？

齋藤 経済新聞から関係ありそうな情報は全て拾っておいて、そこからピックアップした企業さんにコンタクトを取っていきます。

例えば、東北に進出しそうな企業はないか。他の地域にはあるけど東北にはないものは何か。大手コンビニチェーンで当時、全国展開をしていましたが、沖縄・鳥取・四国・北東北3県にはなかった。



高屋敷克広／1982(昭和57)年から2年間商工課に在籍。◀写真は誘致企業に配ったテレホンカード。北上市のイメージアップにつなげようと「北上夜曲」の歌詞もプリント。同曲は企業誘致と一緒に取り組んだ当時の高屋敷さんの上司・沢田実氏(3年前に他界)もよく歌っていたそう。



ということ、どこかのタイミングで北東北3県に一気に進出するだろう。となれば、それに伴う食品工場の進出は必ず必要になるだろうという予想のもとに誘致活動に動いていました。

ただそう簡単にはいきません。コンビニメーカーさんも最初の4年間は、一度も会わせてもらえませんでした。そりやそうですよ。当時は北東北への進出を考えていないわけですから。それでも春・夏・秋・冬と年4回訪問して、5年目の春ですよ。「どうぞ」と言われて初めて挨拶させていただいたのは……。

ただし、それから早かった。そのときにすぐ「実は北東北に進出を今考えている」というお話で、すぐ動きました。そういうことは、いっぱいあります。企業さんにもタイミングがありますからね。でもそれがいつかはわからない。だから私たちは諦めずに足を運ぶわけです。

背負っているものの重み……。

……その諦めない気持ちはどこから？
齋藤 私たちは背負っているものが違うんですよ。県内の市町村で、独自で工業団地を持っているのは北上市しかありません。

せん。それが他なら、変な話、工業団地が売れなくても自分たちは困らない。ところが私たちは、北上市が全て造成して所有している工業団地ですから、金融機関さんからお金を借りているので、企業さんに立地していただいて、その借金を返さなければならぬ。「売れなきゃなんじよするのや！」となるわけです。そこが、北上市が他の市町村とは背負っているものが違うところです。

菅野 私は企業立地に直接かかわっていませんが、(齋藤)泰勇くんの上司として企業立地の取り組みはずっと見ていました。企業さんからいろいろな条件を出されてその課題をクリアして、行ったり

来たりを何度も重ねて誠実にやっているからこそ「じゃあ北上市で」となる。そういう背負っているものがあるからこそ、対応の早さ・緻密さにつながるし、それがあからこそ

菅野俊基 / 2004(平成16)年から2年間商工課に、2009(平成21)年から2年間商工部に在籍。



企業さんが北上市に進出してくる理由にもなっていると思いますね。

齋藤 そういうことができるのも、先輩たちのお陰ですよ。そうできる環境をつくってくれた。

企業さんを誘致する場合は、建設、消防、環境、農業、商業……と全てからできます。企業さんの要望に応えるためには、それらを横断的にカバーしてスピーディに対応していかないとけない。

それが北上市では、企業立地課だけではなく、他の課もそれを優先的に取り組んでいて、北上市に言えば企業さんはワンストップで全部解決できるんです。

企業さんからは「素晴らしい取り組みをしてくれる」とよく言われました。

加藤 それにアフターフォローですよ。来たらそれで終わりじゃない。

齋藤 そうなんです。毎年2・3月頃に市長を先頭に三役、部長級が「企業訪問」をしています。それも北上市に対するご要望を企業さんから伺って現状の問題を解決するのが狙いで、それに対する動きもワンストップで課を超えて横断的に対応できるようになっている。

るにそれは「地域をどう持続させるか」ということを当時から問題意識を持って考え、取り組んできたということ。そのスパンが他自治体よりも長いわけです。この工業振興という流れに農業も商業も付随して相互がチカラを出し合って連携していければ、持続可能な街・北上市は揺るぎないものになると思うんですよ。

高屋敷 企業誘致も突き詰めると都市の総合力が問われるのだと思います。

団地あります、電力あります、水あります、労働力あります、というのは当たり前のこと。そのうえで企業さんは、例えば教育分野はどうか、医療・介護・福祉体制はどうか、スポーツ・文化施設は……、そういういろいろな分野を調べて総合的に見て「住みやすい街かどうか」という判断で立地を決めるようになってきていますからね。

今後はより一層、総合力が大事で、いろいろな分野がひとつになっていくことが大事ですよ。

齋藤 そうしたなかで、では「KNFって何のためにあるのか」という話になってくるわけです(笑)

KNFは、北上市の工業化の歴史のなかで地元の若い世代のいろいろな分野の企業さんたち、いろいろな技術を持ったヒトたちが今集まっているわけです。そういうヒトたちが持っている技術を集めたら、東京の大田区ではないですけど、何か北上発の新しいモノができるんじゃないか？ 先ほど「都市の総合力」という話が出ましたけど、北上市の若いヒトたちのいろいろな技術の総合力で北上発の新しいモノができるんじゃないか？ それで北上市の工業の活性化につながっていくことを、私は期待しています。

小原 最後に大きな宿題を背負わされた感じですね(笑)

最近、北上市の発展が記事になったり他県から来た方から「北上市は活気があ」と言っていたりするなかで、これまで企業誘致を続けてこられた北上市企業立地課のみなさんの涙ぐましい努力を見聞きしてきた私としては、なんとかその取り組みを記録に残しておきたいという想いがありました。

みなさんのお話を伺って、改めて北上市は地域振興の柱として工業化の道を突

これはやはり、北上市は代々の首長さん、及川顕司さん、八重樫長兵衛さん、齋藤五郎さん、高橋盛吉さん、伊藤彬さん、高橋敏彦さんとながたつがってきたなかで、工業振興を柱に、農業と工業の両輪として取り組んできています。そこにブレがなくて、やり続けているからこそ私たちもすごくやりやすい。迷わず突き進めるといえるのはありますよ。

菅野 優先順位が明確だから、それに対して課を超えてみんなで取り組むというのが北上市にはあるんですよ。

先人の想い。持続可能な街へ。

加藤 国では「持続可能な地域をつくりましょう」ということで今いろいろ取り組んでいます。その根底には少子高齢化の問題がある。高齢化が進んで医療費がかかる一方、少子化や過疎化で人口が減り、労働力も足りなくなるし、経済も回らなくなる。そういうなかで各市町村は「どう生きるか」を今模索している。

それに対して今までの北上市の流れは1954(昭和29)年に1町6カ村が合併したときから工業振興が目的で、要す

き進んだからこそ、現在がある。そのことを決して忘れてはいけないし、「北上市がどうあるべきか」というのをKNFはもちろん、官民分け隔てなくみんなで考えて、一緒にチカラを尽くしていくことが大事だと思いました。

今日は、どうもありがとうございました。(了)



代表あいさつ

「まずはやってみよう！」こそK.N.Fの強み。

今から振り返ってみても、なぜ1999(平成11)年の発起人会に私のような若輩者が呼ばれたのか理由が思い当たりません。発起人会では「ミレニアムの2000年を迎えるにあたり若い人を入れた」と紹介されましたが、当時私は北上市の家業に戻ってまだ2年目。製造業ではなく建設業。やはり不思議な縁としか言えない思いがします。それから20年。K.N.Fで多くの先輩・友人・後輩に出会えました。『人は人でしか磨かれない』との格言がありますが、未だ荒削りの自分とはいえK.N.Fでの出会いがあって、今の自分があるのは疑いようもありません。仕事の面でも製造業は建設業より15年先を行っていると感じて3Sや3D CADなどを早い段階で自社に取り込むことができたのもK.N.Fに居たからこそでした。



小原 学
株式会社 小原建設
代表取締役専務

『北上ネットワーク・フォーラム(K.N.F)』という名称は、第1回発起人会での議論で生まれました。そのときのやりとりを鮮明に覚えています。当時『岩手ネットワーク・システム(INS)』という岩手大学中心の産学官連携組織があり、それに倣い『北上ネットワーク・システム』という名称の流れでしたが、「システムでは堅苦しい」という意見が出て、発起人の寒川潮光さんが「では『北上ネットワーク・フォーラム』にして、みんながワイワイガヤガヤと話すようにしたらどうか」と言われて、議論の末、決定されました。まさにそのときの議論のまま、今でも役員会や幹事会ではみんなが意見を出し合い、自由な発想で、また自由な立場で議論がなされています。K.N.Fほど『まずはやってみよう。やってみてから反省しよう』という姿勢で事業を行える団体はなかるうと思います。震災直後の沿岸ものづくり復興支援や地元中小製造業の人材不足に対するシャッコーBARなどの取り組みは、まさにその典型です。

このような自由な活動ができたのも、会員の方々の温かいご賛同を得たお陰です。この場を借りて御礼申し上げます。また、本業があるなかで幹事会に出席し力添えいただいた役員の方々にも感謝申し上げます。特に、優秀な事務局職員を長年、派遣いただいた北上市、北上市基盤支援センター、北上市産業支援センターに感謝申し上げます。「多くのご支援に十分報えたか？」と自問すれば、力不足を痛感するばかり。しかし、幹事会で「やるか？ やらないか？」の選択を迫られたとき、とった方針は、「すでに市には工業クラブや商工会議所など大きな団体があるが、それら団体がやらない事業・やれない事業、しかし市には必要と思われる事業なら、我々K.N.Fがやるしかない」という理念でした。

今、北上市は大企業誘致で活気ある街として近隣から注目を浴びております。そうしたなかで20周年を迎えたK.N.Fもその役割を変えるべき時期にきていると思います。今後は若い世代が次の時代を切り拓いていけるように現在の体制を改めて見つめ直し、これからさらに10年、K.N.Fが市勢発展の一助となる組織であり続けることを願って筆を置きます。ありがとうございました。

副代表あいさつ

復興支援で得た“経験”と“思考”を未来に。

設立20周年おめでとうございます。設立時からの参加ではありませんでしたが、会の目的の「新技術及び新産業の創出を図り、地域産業界の自立的・創造的活性化を目指す」ということに強く惹かれ活動してきました。活動の中で思い出深いのは、東日本大震災直後の釜石の企業への復興支援活動です。「2社に絞って支援しよう」という阿部昌明幹事の号令のもと2社の惨状を聞き、今後の支援のあり方を議論し、各方面に呼びかけて集まった多くの支援物資を持って現地にはせ参じた日のことは今も鮮明に覚えています。地域連携ということにも取り組んでいたもので、忘れかけていた沿岸と内陸の横軸連携の必要性を感じた出来事でした。そのときに経験し思考したことを今後のK.N.F活動に活かされればと思っております。



鬼柳 裕
株式会社 鬼柳
代表取締役社長

この10年間の活動を誇りに、変化の時代をけん引。

設立20周年にあたり行政並びに各機関の方々及び会員各位に感謝申し上げます。K.N.Fの活動も早20年となりましたが、その中でもこの10年間の活動は目を見張るものがあつたと思います。東日本大震災での沿岸部製造業者への支援、これからの10年、20年を見据えた全国各地の異業種グループとの交流、K.N.Fだけでなく地元北上市及び周辺地域の活性化への取り組み(コマ大戦、3S活動等)など。若手役員の方々を中心に行政の方や各機関の方々のお力をいただきながら、益々変化していく時代をけん引していけるような活動を今後も続けていけるよう努めていきたいと思っております。



市川雅得
株式会社 市川製作所
代表取締役社長

背中を押してくれた先輩たちに感謝。次は私が……。

2000年にK.N.Fが設立され、翌年に会員になりました。ITバブル崩壊で仕事もなく、「仕事につながれば」と期待したのですが……(笑) しかし仕事では経験できないことをさせてくれたのがK.N.F。最初の10年は谷村会長はじめ先輩たちが、いつもの私なら敬遠する展示会への参加やプレゼンも「確井、やれ！やれ！」と強引に(笑) しかし、それに挑戦したからこそ自分の強みや弱みに気づき、成長することができました。その後の10年はモノヅクリンクネットやコマ大戦など活動が全国にひろがりましたが、その原動力となったのも最初の10年があつたから。私の背中を押してくださった先輩たちには感謝しかありません。今後もK.N.Fは若い世代が楽しんで新しいことに挑戦する場であってほしい。そのために次は私が背中を押してあげたいと思っています。



碓井浩太郎
有限会社 ウスイ製作所
代表取締役社長